



Title	趣旨説明. 消費者法における公私の協働 (1) : 実定法学のクロスロード
Author(s)	吉田, 克己
Citation	北大法学論集, 57(5), 155-158
Issue Date	2007-01-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/20530
Type	bulletin (article)
Note	シンポジウム「消費者法における公私の協働」(札幌, 2006年2月5日, 「市場環境・生活環境の秩序形成における公私の協働 《公共圏》の実定法学的構造」プロジェクト主催, 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター共催)
File Information	57(5)_155-158.pdf



[Instructions for use](#)

シンポジウム

消費者法における公私の協働（一）

——実定法学のクロスロード——

主 催

「市場環境・生活環境の秩序形成における公私の協働」——
《公共圏》の実定法学的構造」プロジェクト

共 催

北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター

目次

趣旨説明

報告一 「貸金業規制法と私法秩序——業法（事業法）秩序の内部に存在する『特別私法』秩序——」

報告二 「消費者保護における刑法の役割」

コメント

〈討論〉

報告三 「自治体の消費者行政について——東京都を素材として」

報告四 「消費者団体の団体訴権——その背景と位置づけ」

〈討論〉

吉田克己
潮見佳男
佐伯仁志
吉田克己
（以上、本号）
島田和夫
池田清治

趣旨説明

吉田 克己

以下に掲げるのは、科学研究費基盤A「市場環境・生活環境の秩序形成における公私の協働——《公共圏》の実定法学的構造」（研究代表者・吉田克己、二〇〇五年度～二〇〇八年度）に基づいて、二〇〇六年二月五日、北海道大学において開催されたシンポジウム「消費者法における公私の協働」の記録である。この科研プロジェクトは、前期の科研プロジェクト「溶解する法システムの二一世紀的統合に向けた法戦略——行政・市場・生活の比較研究」（研究代表者・吉田克己、二〇〇二年度～二〇〇四年度）を引き継ぐものである。前期すなわち第一期には、二回のシンポジウムが開催された。「競争秩序への多元的アプローチ——実定法学のクロスロード」（二〇〇四年一〇月二日）および「環境秩序への多元的アプローチ——実定法学のクロスロード」（二〇〇五年三月五日）である。その内容は、競争シンポについては本誌五六巻一号および三号（二〇〇五年）に、環境シンポについては本誌五六巻三号および四号（二〇〇五年）に掲載されている。したがって、今回のシンポジウムは、第一期から通算すると第三回目のシンポジウムということになる。

前二回のシンポジウムにおいては、競争秩序と環境秩序という、いわゆる外郭秩序における問題を扱った。外郭秩序

は、私の理解では、公共的利益の確保が問題となる公的空間である。したがって、外郭秩序に民法学がアプローチする場合には、民法学が公共的利益をどのように理論化すべきかという問題に直面する。今回取り上げる消費者法については、問題状況が必ずしも同一ではない。たしかに、消費者の行動を通じて競争秩序の維持という公共的利益が確保されていくことはありうる。とりわけ、今回のシンポジウムでも取り上げた消費者の団体訴権などにおいては、消費者法のような側面が前面に出るであろう。しかし、消費者法の場合には、そのような公共的利益の問題よりも、むしろ消費者の私的利益をどのように保護するかが重要な問題である。ここでは、公共的利益の問題が直接には提起されず、もっぱら私的利益実現が問題になることもありうる。つまり、消費者法の問題は、たしかに外郭秩序にもかかわるが、そのすべてを直ちに外郭秩序の問題とは位置づけられないほうがよいのではないかと、ということである。そのような構図の中で公私協働のあり方を探るといのが、今回のシンポジウムの狙いである。とはいえ、これは私なりの問題意識であって、実際の報告また議論においては、より豊富な視点からの問題への接近、検討がなされている。

今回のシンポジウムは、悪天候に祟られた。前日が悪天候で、千歳空港が終日閉鎖されたのである。そのため、シンポジストとして予定された京都大学・潮見佳男教授の参加が不可能になった。潮見教授には、後日（二〇〇六年三月二八日）、改めて札幌まで来ていただき、研究会において報告をしていただいた。以下の記録には、その報告および吉田コメントそしてそれに対する潮見回答も収録した。しかし、シンポジウムの議論への紙上参加まではお願していない。シンポジウムの議論に潮見発言がないのは、そのような事情による。他方、他の交通手段を使うなどして、悪天候を押して札幌までいらしていただき、充実した報告をしてくださった東京大学・佐伯仁志教授、東京経済大学・島田和夫教授に、この場を借りて改めて心から御礼申し上げたい。